

◆日本語 OS 上での中国語入力方法◆

- ① GP-PRO/PBⅢを起動。
- ② [プロジェクトマネージャ]のウィンドウが表示されます。(図 1)



(図 1)

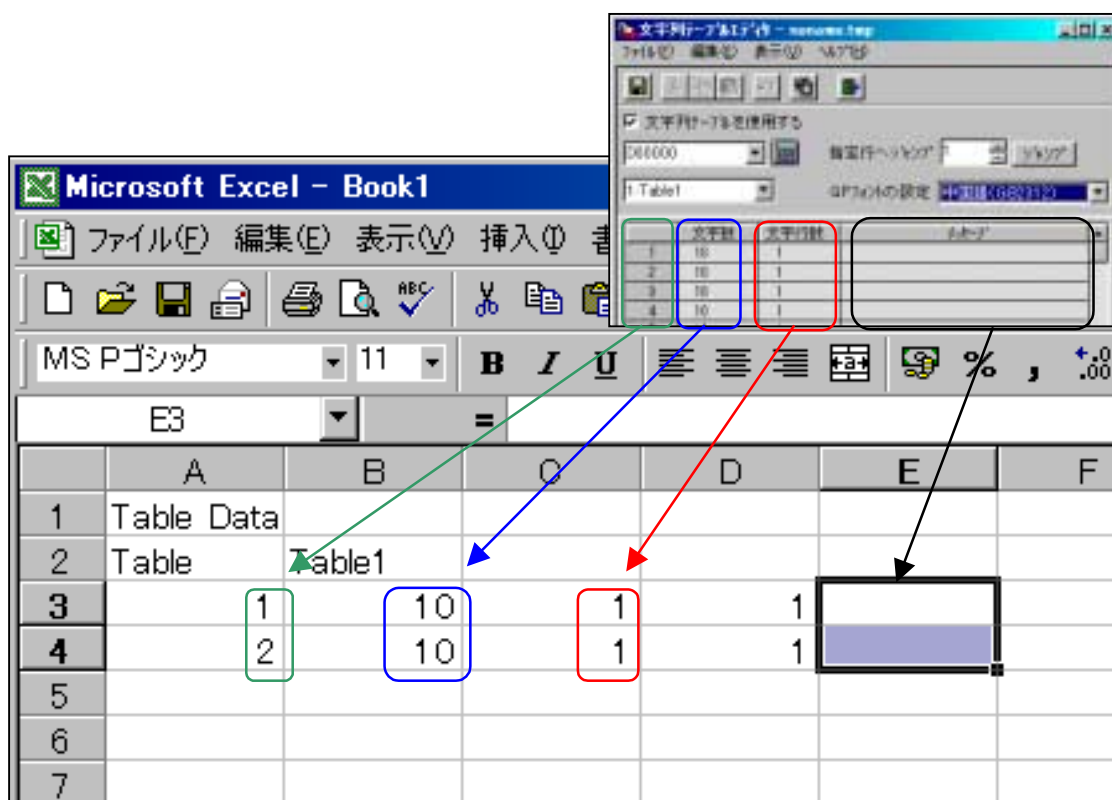
- ③ プロジェクトマネージャのツールバー[画面/設定(S)]から「文字列テーブルの作成(T)」を選択します。(図 2)



(図 2)

④ Excel を起動し、下記の操作を行います。(図 3)

- (1) Excel の A-1には「Table Data」と入力します。
- (2) A-2 には「Table」、B-2 には「Table 番号(ここでは Table1 とします)」を入力します。
- (3) A-3 以降は1から順に番号を入力します。
- (4) B-3 以降は文字数を入力します。
- (5) C-3 以降は文字行数を入力します。
- (6) D-3 以降は[GP フォントの設定]により番号を入力します。(日本語:0、中国語:1)
- (7) E-3 以降にメッセージ(中国語)を入力することになります。



(図 3)

⑤ 入力システム(IME)、フォントを中国語に切り替える。



以下の操作は、Excel 上の中国語を入力するセル(E-3 以降)を選択してから行います。
(例えば E-3～E-6 まで中国語を入力する際には E-3～E-6 までを選択してから切り替えます)

◇◆入力システムの切り替え◆◇

入力システム(IME)の切り替えは下記の 3 つの方法があります。

I : Windows95/98/NT4.0/Me/2000 をご利用の場合

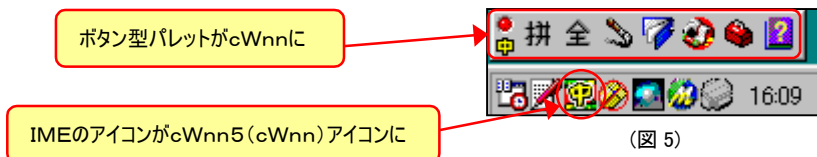
I - 1 タスクバーから切り替える方法(P28)

(1) タスクバー上で現在使用中の IME (多言語インジケータ) をクリックします。

表示された IME 一覧から「中国語入力システム cWnn5(cWnn)」を選択します。(図 4)



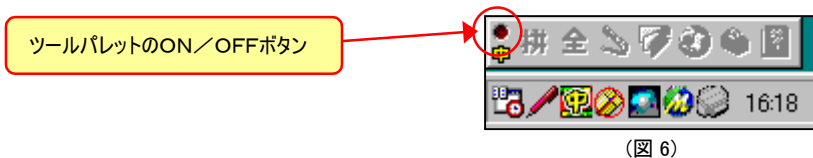
(2) タスクバー上の IME のアイコンとボタン型パレットが cWnn5(cWnn) に変わります。(図 5)



(3) ON/OFF の切り替えは「Alt」を押しながら「半角/全角」キーを押します。

また、ツールパレットの中国語入力の ON/OFF ボタンをクリックしても切り替えることが可能です。

ON の状態で中国語を入力します。(図 6)



◆IME の ON/OFF の確認

	ツールパレットの色
IME が ON の場合	カラー
IME が OFF の場合	グレー

I -2ワンタッチ切り替えボタン「マルチリンガルマネージャ」で切り替える方法 (P204)

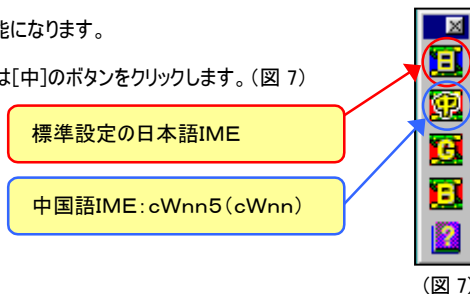
マルチリンガルマネージャとは？

cWnn5をインストールすると、初期設定では下画面のようなマルチリンガルマネージャが起動します。

日本語と中国語のIME、フォントをワンタッチで切り替えることが可能になります。

日本語を入力する際には[日]のボタンを、中国語を入力する際には[中]のボタンをクリックします。(図 7)

※WindowsXPではマルチリンガルマネージャは使用できません。



(図 7)

(1) マルチリンガルマネージャを起動する。

マルチリンガルマネージャのパレットがデスクトップ画面に表示されていない場合、タスクバーのアイコンから表示状態にすることが可能です。

アイコンをクリック(左)し、ポップアップメニューから「パレット表示」を選択します。(図 8)



(図 8)

II : WindowsXP をご利用の場合

① キーボード・アイコンをクリックし

入力システム選択メニューを表示します。(図 9)



中国語入力システムcWnn5(cWnn)をクリック

(図 9)

② メニューの中から

「中国語入力システム cWnn5(cWnn)」を選択します。

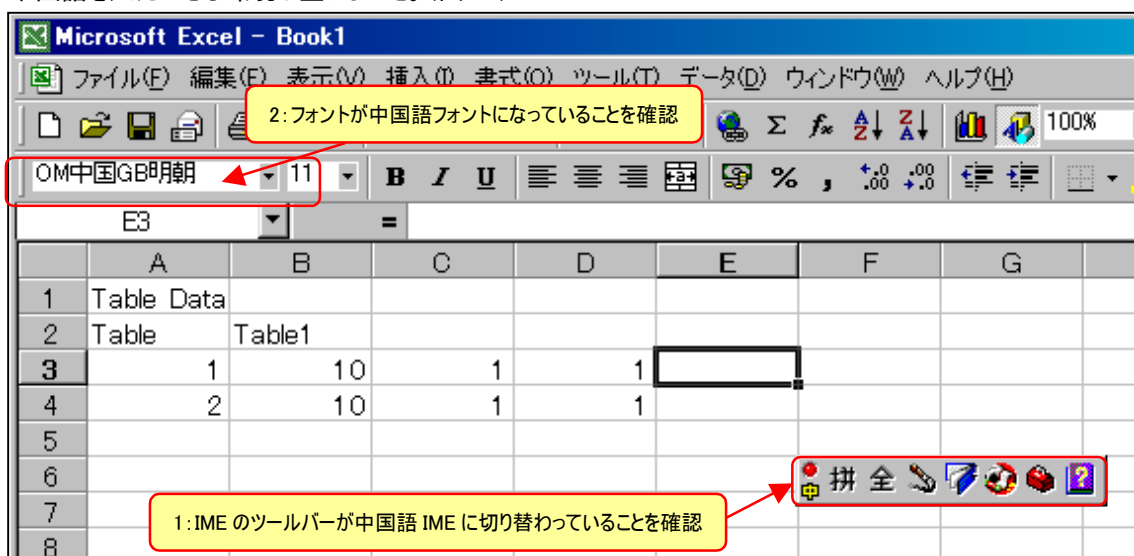
◇◆フォントの切り替え◆◇

入力システム(IME)を中国語入力システム cWnn5(cWnn)に切り替えた際には以下の中国語フォントに切り替えて入力します。

(ここでは OM 中国 GB ゴシックを使います)

OM 中国 GB ゴシック	OM 中国 GB 丸ゴシック
OM 中国 GB 行書	OM 中国 GB 明朝
OM 中国 GB 隷書	OM 中国 GB 楷書
OM 中国繁体ゴシック	OM 中国繁体明朝

中国語 IME に切り替わっていること、フォントが中国語に切り替わっていることを確認したら中国語を入力できる環境が整いました。(図 10)



(図 10)

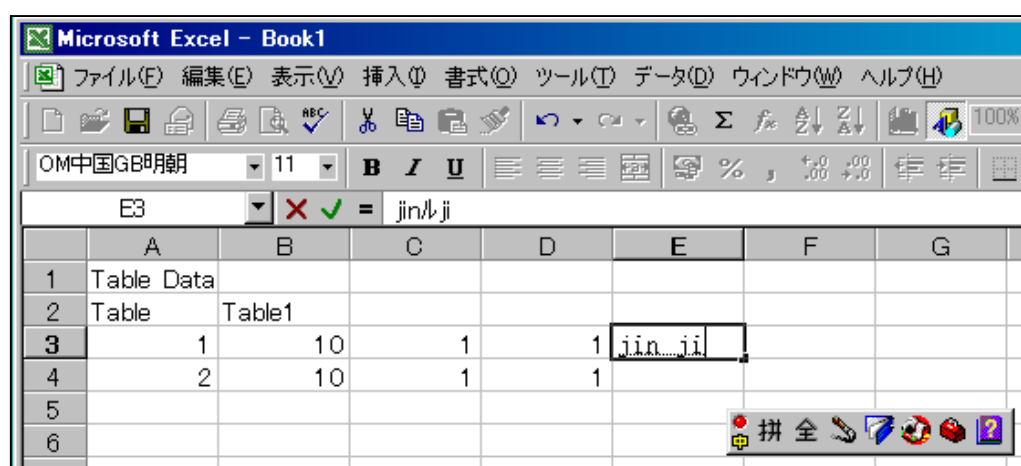
⑥ 中国語を入力する。

入力方法は 2 通りのモードで行うことが可能です。

- ◆ピンイン入力(中国漢字の読みを入力し、変換する方法 例:ni hao → 低挫)
- ◆日本語から中国語へ変換する(例:きんきゅう→緊急→諸識)

(1) ピンインで入力する。(ここでは、諸識と入力することにします。)

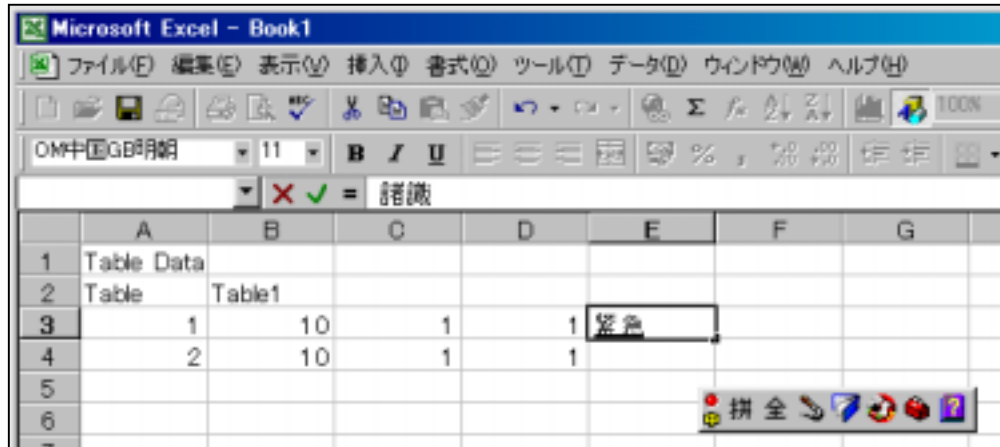
1. ピンインを入力します。キーボードから「jin ji」と入力します。(図 11)



(図 11)

2. 中国語に変換します。

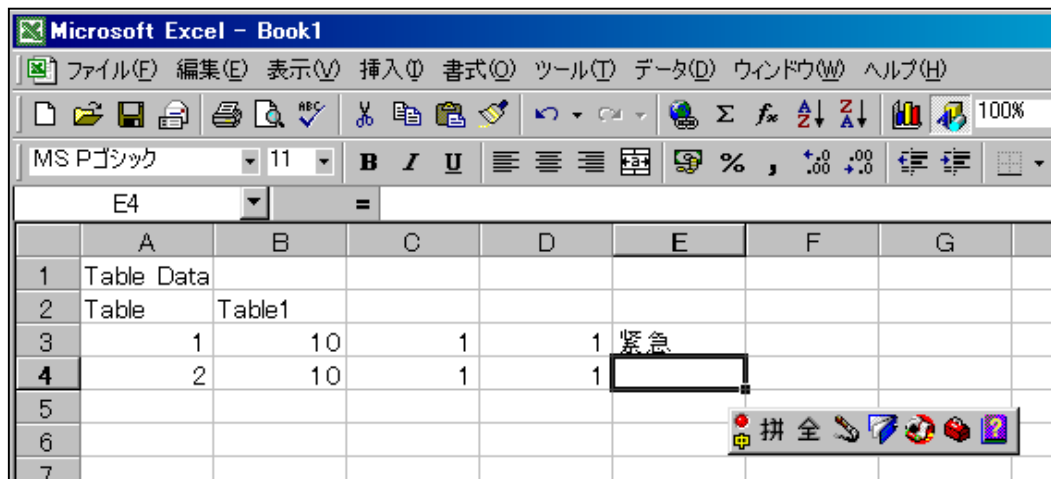
「変換」または、「スペース」キーを押すと中国語に変換されます。(図 12)



(図 12)

3. 正しく変換されたら決定します。

「Enter」キーを押すと全文が決定されます。(図 13)



(図 13)

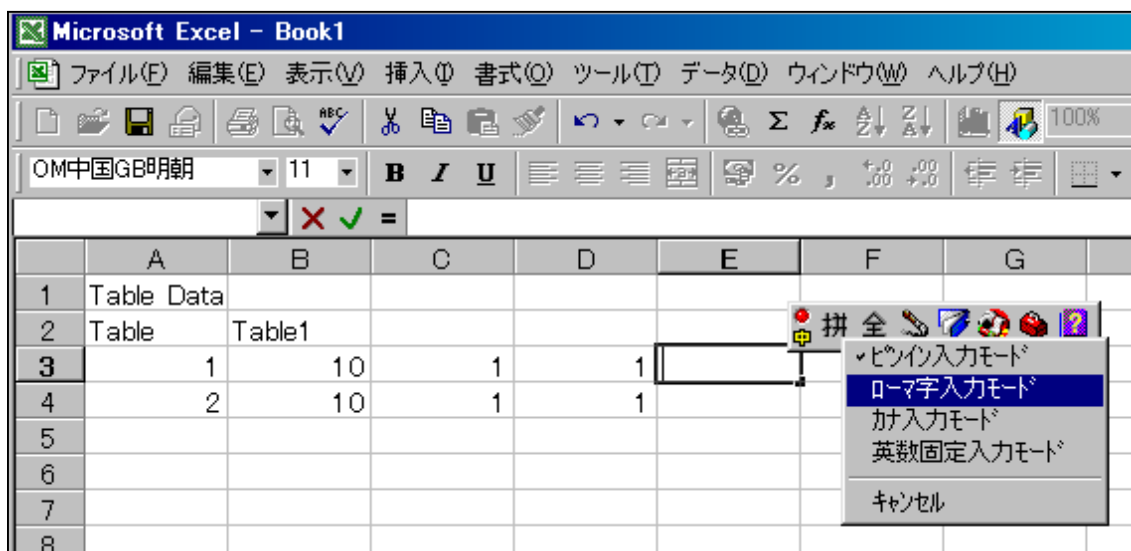
(2) 日本語から中国語へ変換する。(ここでは、日本語で「きんきゅう」と入力して中国語へ変換します)

※この機能は、文章の翻訳はできません。単語レベルでの中国語への変換が可能です。

1.日本語から中国語への変換をするために入力モードを切り替えます。(図 14)

中国語 IME ツールバーの「懂」をクリックすると入力モードを切り替えることができます。

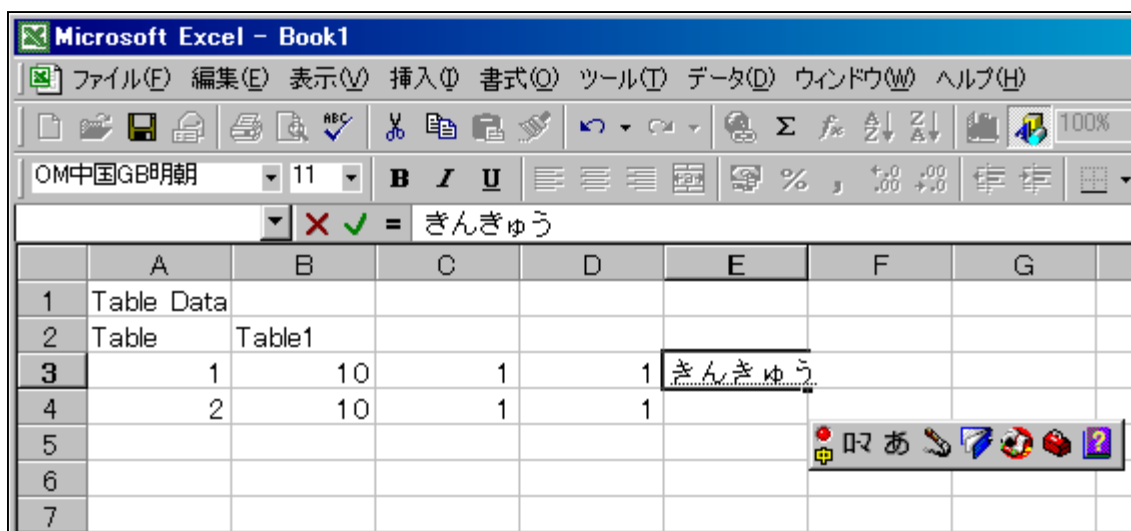
日本語から入力する際には「ローマ字入力モード」を選択します。



IME ツールバーの入力モードがローマ字入力モードに切り替わります

(図 14)

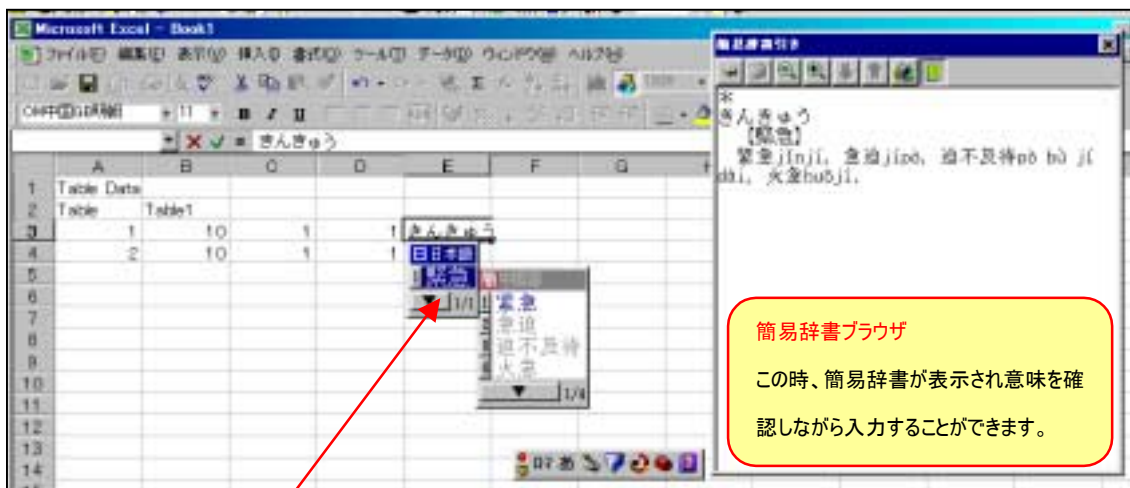
2.「kinkyuu」とローマ字で入力します。(図 15)



(図 15)

3.「変換」キーを押すと、日本語の候補一覧が表示されます。(図 16)

それとともに選択されている日本語の意味を表す中国語候補が一覧で表示されます。

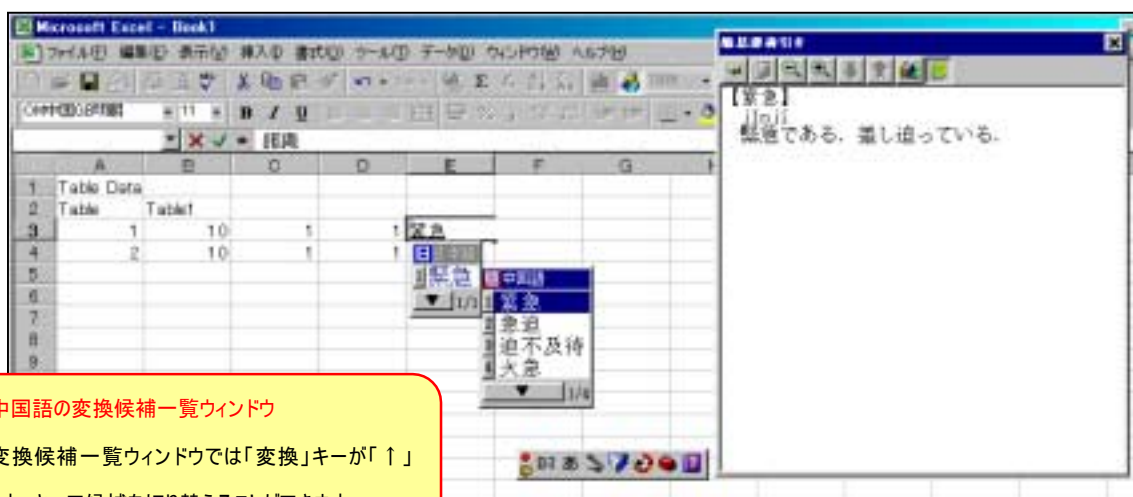


日本語の変換候補一覧ウィンドウ

日本語の変換候補一覧ウィンドウでは「変換」キーが「↑」「↓」キーで候補を切り替えることができます。

(図 16)

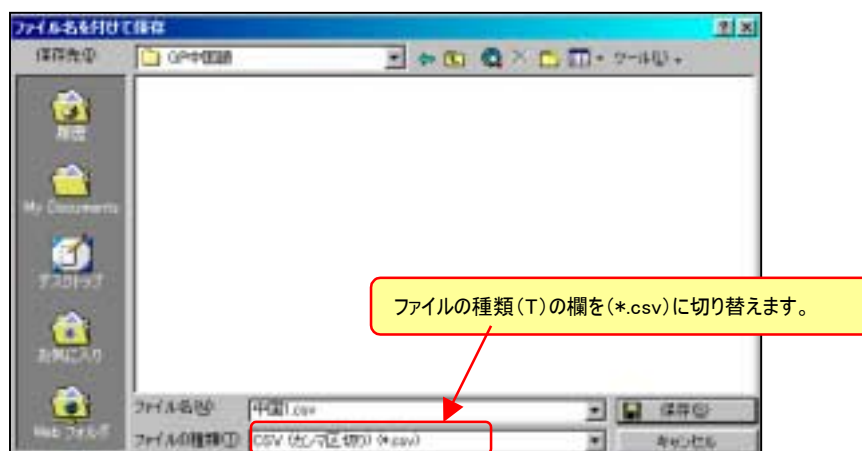
4.日本語の変換候補から入力したい意味の単語を選択します。「→」キーで中国語変換候補一覧ウィンドウにカーソルを移動します。(図 17)



(図 17)

5.目的の中国語を選択して「確定」キーや「Enter」キーで決定します。

- ⑦ 中国語を入力した Excel ファイルを任意の場所に「.csv 形式」で保存する。(図 18)
 (ここでは「中国 1.csv」というファイル名で保存することになります。)

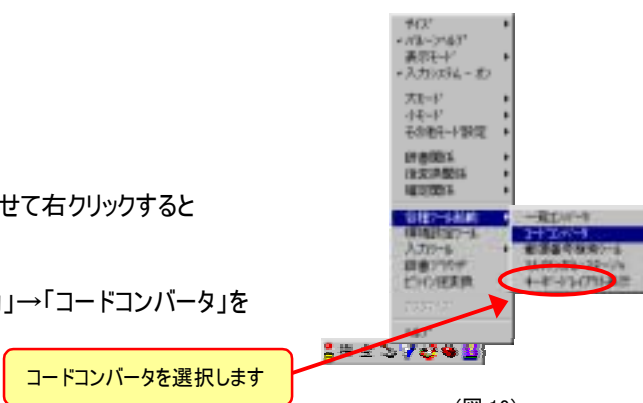


(図 18)

- ⑧ コードコンバータを使って⑦で保存したファイルのコード変換を行う。
 コードコンバータを起動します。
 コードコンバータを起動するには「ツールパレットから起動」と「スタートメニューから起動」
 の2通りの方法があります。

I : ツールパレットから起動する場合

- (1) ツールパレットにマウスポインタを合わせて右クリックすると
 ポップアップメニューが開きます。
 メニューの中から「各種ツールの起動」→「コードコンバータ」を
 選択します。(図 19)



(図 19)

- (2) コードコンバータが起動します。(図 20)



(図 20)

II : スタートメニューから起動する場合

(1) 「スタート」ボタンをクリックし、

「プログラム」→「楽々中国語」→「cWnn5」→「コードコンバータ」を選択します。(図 21)



(図 21)

(2) コードコンバータが起動します。

⑨ コードコンバータによりコード変換を行う。(P176)

(1) 入力ファイルを指定します。(図 22)

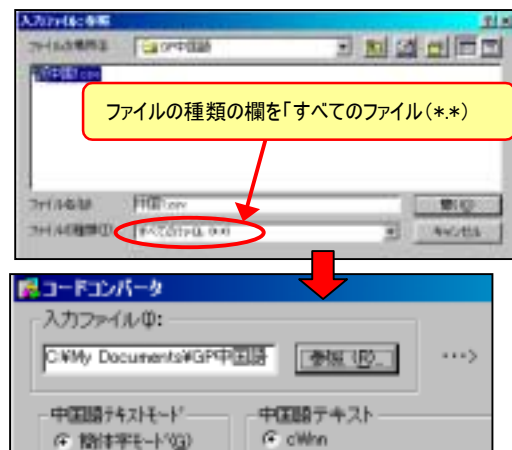
入力ファイルとはコード変換したい元のファイル名です。
パス(ドライブ名やフォルダ名)も含めて入力する必要があります。

(ここでは、先ほど保存した「中国 1.csv」というファイルを指定)



(図 22)

参照ウィンドウが開いたら、変換するファイル元の
ファイルが保存されているドライブやフォルダ名を
クリックし、ファイル名を選択します。(図 23)

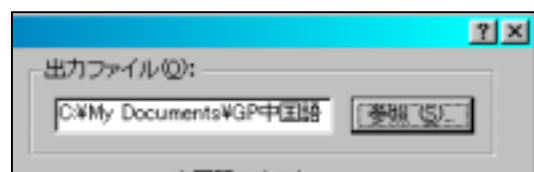


(図 23)

(2) 出力ファイルを指定します。(図 24)

出力ファイル欄に入力するのは、
コード変換後に保存するファイル名です。
入力ファイルと同じフォルダ(パス)に保存して
よければ、ファイル名だけを入力します。

(ここでは、「中国 2.csv」というファイル名にします)



(図 24)

- (3) 「中国語テキスト」欄から変換元のコード
と変換したいコードをそれぞれ指定します。(図 25)

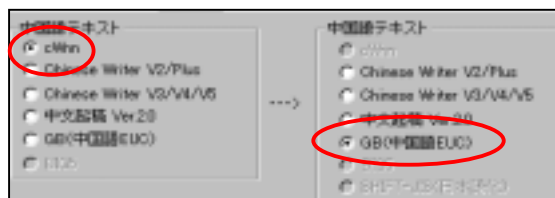


GP-PRO/PBⅢでの中国語入力の際

変換元は「cWnn」

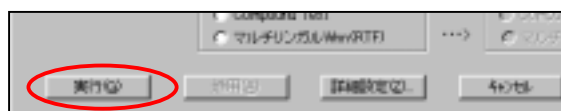
変換後は「GB」

を指定します。



(図 25)

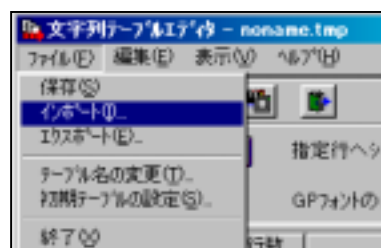
- (4) 変換コードにチェックを入れたら
「実行」ボタンをクリックします。
自動的にコード変換が行われます。



(図 26)

(図 26)

- ⑩ 文字列テーブルエディタのツールバー「ファイル(F)」
から「インポート(I)」を選択します。(図 27)



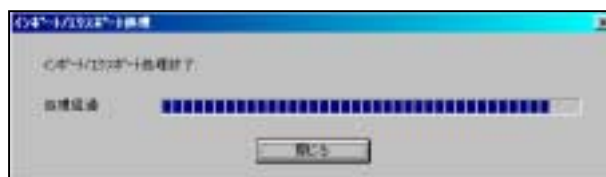
(図 27)

- ⑪ 先ほどコード変換したファイルを選択します。
(ここでは、変換後のファイルを「中国 2.csv」と
したのでそれを選択します。)(図 28)



(図 28)

- ⑫ インポートが自動的に行われます。
終了後、閉じるをクリックします。
(図 29)



(図 29)

- ⑬ 文字列テーブルエディタのメッセージ欄にインポートされたデータが入力されました。
ここでは、最初に「緊急」と入力しましたが、最終は「ス・ア」と表示されます。(図 30)



(図 30)



※この時、最初に Excel で入力した文字とインポート後メッセージ欄で表示された文字は異なります。
エディタ上では文字化けし「ス・ア」と表示されますが、本来の正しい中国語を認識しておりますので
GP 表示器には正しい中国語が表示されます。

[Excel に入力した中国語] 諸識 ➡ [メッセージ欄に表示された文字] ス・ア

- ⑭ このデータを表示器に転送してください。